

例会報告 Rotary



お祝い・S. A. A

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 下屋勝比古
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 塚本 直人
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 挾土 貞吉

世界に希望を生み出そう

<会長の時間>

9月になり、ようやく息苦しい猛暑も収まり始めました。今日は、高山の伝統文化をあらためて勉強してみようということで、来年創業230年、岐阜県で一番歴史のある料亭の当主である洲岬孝雄さんにお越しいただき、伝統と格式高い『高山の宴(うたげ)』について卓話をいただきます。来月はそれを実践すべくその空間やお料理を体感します。ぜひ、ご家族をお連れになりご参加下さい。その前には、なかなか見学する機会がないであろう「高山陣屋」も見学していただきます。そもそも「陣屋」ってどういう施設であったのか?どんな施設なのか?高山に居ても知らないことがある施設でしょう。秋の遠足・社会見学です。

さて、伝統といえば、私がやっている鍼灸はまさに「伝統医学」でして、遠く2000年前から人々の経験と工夫によって受け継がれてきた医療です。現代医学といえば西洋医学であり、医師といえば大学医学部でしっかり教育を受けた肩を差しますが、明治以前は、町医者として広く活躍していました。戦後GHQに迫害を受け、医療は西洋医学と位置付けられどんどん進歩して今に至っています。その昔は、漢方医や鍼灸医師として活躍していた時代がありました。皆さんの知っている有名な鍼灸師といえば「藤枝梅安」先生でしょうか?そう必殺仕掛人の梅安先生。お金で殺しを請け負うドラマの主人公ですが、そもそも首の後ろにかんざしや針が刺さるはずはなく、大学に入った頃よく議論したものです。

西洋医学と東洋医学の違いを一口で言えば、狩猟医学と耕作医学です。西洋医学は血液を調べ、レントゲンやMRIなどで体の内部を細かく調べて病巣部位を探しだし、薬や手術などを使って徹底的にたたき攻撃的な医療です。周囲組織も含めて切除しますし、光線や薬品の投与で副反応も起こします。これまでそれで助かる命はたくさんあります。現に私は12時間を超える手術を2回も受けても元気に活動させてもらっています。

一方東洋医学はまさに自然医学です。潮の満ち引きや暑い寒い、明るい暗いが体の営みに影響しているから、温めたりさすったり動かしたりしながら、体の調子を整えていきます。自然栽培の農業では、四季に応じて田畑を耕し、種をまき収穫をします。究極の鍼灸治療の究極の目的は「気の流れを整える」ことなのです。日本人は、もともと農業など山村で静かに暮らす民族だったので、戦後欧米化が一気に進み、悪い奴や意見の違うものを攻撃し、排除し侵略しようとなってきました。西洋文化を否定はしませんが、東洋医学は、体本来の能力を引き出し自然環境にあわせた健康づくりを行う医学です。新しい細胞が育たない体は自然に老化が進みやがて滅びます。今の日本の社会がそうならないよう、しっかり子どもを育み、健康で元気な社会を作るためにも、もう一度高山の伝統文化を見つめなおし、高山独自の文化や産業、子供たちを守り育てることは大切なことであるので、ぜひご参加ご協力をお願いします。

「紅葉例会」「出前講座」「地熱発電」と行事が続きますが、すこしでも地域を見直すことが、己の完成世の補益すなわち「自他共栄」となっていきます。

<幹事報告>

◎濃飛グループガバナー補佐、IM実行委員長、可児RCより
・濃飛グループインターシティミーティングのご案内
日程 10月14日(土) 会場 シティホテル美濃加茂
黙祷9:55、点鐘10:00、クブ発表 10:40、
閉会点鐘12:00 懇親会12:45 終了 15:00

◎ガバナーより
・ロータリー財団(補助金管理)セミナー参加出席要請のご案内
日時 10月21日(土) 登録受付11:00~
昼食11:30 点鐘12:30 閉会点鐘16:00
場所 岐阜グランドホテル
参加要請 24-25年度会長、23-24年度R一財団委員長

・会員増強研修セミナー開催のお知らせ
日時 10月28日(土) 11:00点鐘 14:30 終了
場所 岐阜グランドホテル
参加者 クラブ会員増強関連委員長、新会員

<受贈誌>
保険タイム(月刊TIME)、RI日本事務局(基本的教育と識字率向上月間リソースのご案内)、ロータリー文庫運営委員会(決算報告書)、(社)高山市文化協会(高山メセナメイト会報No.79)、岐阜県環境生活部人権施策推進課長(人権だよりNo94)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
29名	-	29名	37名	82.86%

<本日のプログラム> 今月のお祝い

◎会員誕生日(写真左より)

- 田中 武 9.17
- 堺 和信 9.15
- 杉山 和宏 9.21
- (当日欠席) 田邊 淳 9.20



◎夫人誕生日(当日、ご自宅に花束をお届け)
大村 貴之 真由美さん 9.18

例会報告

◎結婚記念日 ナシ

◎出席表彰

阪下 六代 33年

◎在籍周年記念表彰 ナシ

◎3ヶ月表彰

・内田 幸洋 ・斎藤 章 ・阪下 六代 ・挾土 貞吉
・門前 庄次郎



S. A. A 鴻野 幸泰

本日ゲストにお越し頂きましたのは、ご紹介するまでもなく皆様よくご存じの 洲岬 孝雄様です。

10月の紅葉例会を洲さき さんにお世話になるにあたり、事前に改めてお座敷でのマナー等についてお話を伺った上で臨みたいという趣旨で、本日卓話をお願いいたしました。洲岬 様、どうぞよろしくお願ひいたします。



料亭洲さき 10代目当主 洲岬 孝雄 様

日本料理は季節感をとても大事にいたします。それは四方を海に囲まれた山紫水明の国日本は、春夏秋冬が規則正しく繰り返される中で、食べ物にもそれぞれの季節に旬があります。日本料理が美味しいのは、どの国にも負けない

繊細さと伝統が生んだ調理法が所以です。

日本料理と一口に申しまして色々な料理がある中で、飛騨高山を中心とした近隣には、昔から宗和流本膳というお料理が守り伝えられております。本膳料理とは、日本料理の正式なお膳立てで、現在の日本料理の形式や作法の基本になっているもので、日本料理の最高峰といえるものでございます。宗和流本膳料理と申しますのは、飛騨高山の二代城主金森可重の長男で茶道宗和流の始祖、金森宗和の好みの形と味を江戸時代初期より今に伝えるお料理で、昔は一般家庭でも宗和の膳碗の2~30人前は必ず土蔵に納めてあり、また料理屋・仕出し屋でもすべてこの料理が本命でした。高山を中心とした近隣における慶事、仏事、祭礼等まつわる作法は、宗和流本膳料理に直接かかわりがあり、高山の冠婚葬祭の基本になっておりまして、飛騨地方の料理の本流をなしている訳でございます。

飛騨に於ける婚礼(祝言)は当夜と呼ばれ夜通し行われ、最初から戸戸も閉め、次の日になり明るくなっても時間の経過を悟られないよう徹夜でもてなしました。

さて昔の宴席風景ですが、宴が始まると芸者衆のお座付きがあり、その後はお客様同士の杯のやり取り、それも自分の席を立つ人はなく、芸者さんや仲居さんが「あちら様からのお杯です」と中継ぎをして酒を注ぎ、しばらくして今度はこちらが芸者さんに杯を渡し、先程いただいた方に返杯する、そんな繰り返しでした。飛騨地方の宴会は「献杯方式」で杯をいただく「お流し頂戴方式」ではありません。

静かな雰囲気の中での端唄、長唄、清元、粋な踊りはとても見事でした。昔の宴会の様に小唄の一つも唄いたくなるような悠長な気持ちで宴席に臨む事が出来たら、どんなに楽しんだらうかと思っ

<ニコニコボックス>

●下屋 勝比古さん、塚本 直人さん

今日から9月です。トンボが飛びはじめ、朝晩の風も少し秋らしくなった気がします。本日の洲岬孝雄 様、来訪を心より歓迎いたします。10月7日紅葉例会がより楽しく勉強になる素敵な卓話を楽しみにしております。皆様、是非例会にご参加いただけます様お願い致します。

●岡田 賛三さん、挾土 貞吉さん、田近 毅さん、斎藤 章さん、古橋 直彦さん、米澤 久二さん、田中 武さん、鴻野 幸泰さん、大村 貴之さん、杉山 和宏さん、中島 一成さん、堀 幸一郎さん、佐藤 貴史さん

洲岬孝雄さんのご来訪を歓迎いたします。10月の紅葉例会は100%出席で、洲さきさんでの宴席を皆さんで堪能しましょう。

●遠藤 隆浩さん

洲岬孝雄さんのご来訪を歓迎いたします。私は本日は金龍神社奉賛会総会が入ってしまして残念ながら例会に出席出来ません。粋なスピーチ、よろしくお願ひいたします。

●垣内 秀文さん

暑い日がまだまだ続きますが、心と体の癒しを9/23(土)に開催される「クレシェンド・歌の翼に乗せて」演奏会に行かれてはいかですか?今年1月の新年例会で美声を聞かせて頂いた私の同級生、平野嘉世子さんに是非癒されてください。9/23私は都合により行くことが出来ないのですが、心ばかり1枚だけチケットがございます。早い者勝ちです。チラシも一緒に持って行ってください。

●塚本 直人さん

保険タイム発行の月刊TIME9月号は財団補助金事業を特集いたしました。本日の朝刊折込にて市内一部に配布しております。ご参考までにお配りします。ご協力ありがとうございました

人間力を高める

第7回

『私の原風景』

内田 幸洋

昭和31年、私が小学校3年生から4年生にあがる春休み、静岡県吉原市(現富士市)からこの高山に一家4人(父38才、母32才、妹4才、私9才)で夜逃げ同然で引っ越ししてきました。日中戦争の復員兵だった父は、当時の仕事アメリカ進駐軍の軍人等に売るジャンパージャケットの背中にバラやドラゴンの刺繍をして横浜の業者に卸す事でした。しかしそんな仕事も徐々に少なくなり、人の勤めもあり、この高山で事業を始める事になったのです。

東海道線富士駅から普通列車に乗り岐阜へ、そこから蒸気機関車に揺られ、トンネルに入ると乗客みんなが窓を閉め、8時間かけこの高山に降り立ったのです。一家4人は駅前、天満町の旅人宿に数週間逗留し、近隣の軒先を借り仕事を始めました。父母には友人知人も全くなく、ましてや信用もなく、そんな中懸命に仕事を増やしてきました。

私は南小学校(今の高山郵便局のある辺り)に4年生として転校、高山での生活がスタート。高山弁・飛騨弁を理解するのに苦勞し、友人もすぐには出来ませんでした。

以来私は、父母の背中を見て成長し、将来この仕事を引継ぐ事に心が固まって来ました。

もし私に「人間力」なるものがあるとすれば、この原風景がバックボーンにあり、脈々と流れている事が起因しているような気がします。